子ども一人ひとりの可能性を見つけ、大きく伸ばす

津田学園小学校

ICTを活用した学習や教科担任制、食農育や芸術鑑賞を取り入れた体験学習など、時代を見据えた教育環境の構築に取り組む津田学園小学校。従来にない新しい教育に挑戦していく根底には、教育理念である「未来を拓く学力と自他を愛する人間性」をそなえた子供たちを育みたいという強い思いがあります。一つひとつの取り組みが子供たちにどう息づき、どのような感性や能力を育んでいるのか。具体的な内容や、いま実感している子供たちの様子について岡田浩一校長に話を伺いました。

企画・制作／中日新聞広告局

津田学園小学校の教育理念と教育方針

本校が掲げている「未来を拓く学力と自他を愛する人間性」という教育理念には、私たちの〝確かな学力をそなえた人間性豊かな子供たちに育ってほしい〟という強い思いが込められています。その思いを具現化するための柱としているのが「確かな学力」「探究心の追求」「道徳心の育成」です。

昨今、未来が不透明な時代といわれています。これまでは〝こういう道を歩んでいけばこういう人生を送ることができる〟というように比較的未来が見えやすい時代でしたが、テクノロジーが進化した現代社会では世界との距離が近く、あらゆる面での競争が激しく、何事もスピーディーに展開し、数年先の時勢を読むことがとても難しくなっています。そうした時代を生き、未来をたくましく切り拓いていかなければならない子供たちには、やはり従来とは違う、いまの時代に適した教育が必要だと考えます。

とはいえ、どんなに時代が変わっても、古来より日本人が大切にしてきた道徳的な物の考え方をないがしろにして教育は成り立ちません。国際的に見ると日本人は自己肯定感が低いといわれていますが、私たちは子供たちに、自分のことも他人のことも認め尊重できる心をそなえた人に育ってもらうことを切望しており、学力の向上と同等に道徳教育を重視しています。

しかし、単に子供たちに教科の知識や道徳的な考え方を押し付けるだけでは、学力の向上や道徳心の育成にはつながりません。子供は好奇心や探究心が旺盛で、体験することによって心と体でさまざまなことを感じ取り、学んでいきます。ですから本校では、多彩な体験学習を取り入れた学びを大切にしているのです。

岡田浩一 校長

総合学園ならではの強みを生かした教育環境

教育環境で最も大切にしていることは授業時間数の確保です。一般に、たとえば夏休みなど長期休暇の前後には午前授業が設けられますが、本校では午前授業は設けず、年間42週の授業週数、約200日の登校日数、1000時間の授業時数を実現しています。さらに、1年生から毎朝「読書の時間」や「計算の時間」を設け、すべての学習の基礎となる「読む力」や「計算力」を高めています。

時折「授業時間の多さに子供たちはついていけますか」というご質問をいただきますが、時間数が多いからこそ授業の進め方を柔軟に調整でき、深く掘り下げた学習も可能で、体験学習の時間を設けることができます。年間授業日数を増やして学力をつけるというと詰め込むイメージがあるかもしれませんが、授業内の学習でしっかり学力がつくので、子供たちの様子はむしろゆとりがあるように感じられます。

教科の専門性を活かし、子供の学びがより深まるように、教科担任制を採用していることも本校の大きな特長です。総合学園で様々な分野の専門家がいるという本学園の強みを生かし、中学校や他部署の教員にも授業を担当してもらっています。また例えば書道の授業であれば書家の先生を招いて教えてもらうなど、できるだけ専門家が教える体制を整え、子供の深い学びに結びつけています。

さらに、英語教育に関しては、1年生からネイティブ教員による週2時間の授業を行っています。授業の進め方などについては小中高校の英語担当教員による特別委員会を設け、定期的に検討会を実施して決定しています。

こうした教科担任制による利点は、教科の専門性による深い学びだけにとどまりません。まず一つは多くの教師と関わることによって子供の社会性が大きく育まれるという点です。そしてもう一つは、何人もの教科担任の目で子供たちの見守りができることです。毎日必ず終業後に情報共有の時間を設け、クラス担任と教科担任から全クラスの子供たちの様子を報告してもらっています。もし気になることがあれば、迅速に、かつ一貫した対応を取ることができるため、保護者の方へのご連絡等も円滑に進めることができます。

小学校での学びは、より上級の学びを進めていくうえでの重要な基盤となります。本学園では、これらの教育方針を進めることにより、子供たちの確かな学力を養っています。

好奇心・探究心旺盛な子供たちは体験から多くを学ぶ

ICTを活用した双方向型の新しい教育

本校では全教室に固定式の電子黒板を設置し、タブレット端末と連動させた双方向型の協働的な学びを実践しています。これらの学びは主体性が高いため、より密度の濃い学習となります。今までもそのような学びのスタイルは存在しましたが、ICT機器の力によってその学びが圧倒的に容易になりました。

電子黒板は、図表・画像・音声・動画などを活用して創意工夫を凝らした独自の教材を作成し、授業を計画的に進めることができます。授業の質が高度化するとともに、よりわかりやすくなり、児童の集中力を高めて学習効果を飛躍的に向上させています。

またタブレット端末は一人ひとりの意見や考え方を電子黒板上に投影したり、また一覧表示することができ、互いの意見を一目で理解することができます。それらの意見を「比較」「分類」したり、「まとめ」たりすることで、多様な考え方を認め合うようになるとともに、物事を深く考えるようにもなります。また人前で自分の意見を発表することへの抵抗感がなくなり、発表力も自然に身についてきています。

▲学習指導要領上の第1学年の年間授業数は850時間が標準のところ、津田学園小学校では年間約1000時間の授業時数を確保

▲自然観察や近隣地域への社会見学など、体験型の学びを大切にする。ものごとを五感で捉える「実体験」を通して感性を豊かにし、学力に結び付ける指導を重視

豊かな感性を養う本物を体験する学習

体験学習は食農育や芸術鑑賞学習などを実施しています。

食農育では学年ごとに梅干作り、サツマイモの栽培、稲作などを体験。植え付けから収穫、食までを一貫して体験することで、自然界と人との関係や命の大切さなどを学ぶことができます。

芸術鑑賞学習は、専門家から学ぶという考え方にも通じており、狂言、能、オーケストラ、バレエなどを保護者の方と一緒に鑑賞する機会を設けています。子供たちには鑑賞のみでなく事前にワークショップを実施し、実際に舞台に立ったり衣装を身に着けたりすることで、本物の芸術や技術とは何かを実感してもらうことを大切にしています。

また、あいさつを重視している本校ではカリキュラムの中に「礼法」を設け、日本舞踊の師範にお越しいただいて、子供たちに「会釈礼」「尊敬礼」「最敬礼」といった正しいあいさつの仕方や物の受け渡し方、和室の作法などを教えていただいています。

こうした津田学園ならではの教育を包括的に行うことで子供たち一人ひとりの可能性を見つけ、伸ばしていく。そして、子供たちが楽しくいきいきと学園生活を送ることのできる教育環境を整えることが、私たちの大きな使命です。これからも津田学園は、子供たちのために時代にあった教育の構築に挑戦し続けていきます。

▲固定式の電子黒板やタブレット端末など最先端のICT機器を積極的に採用。教師と児童、また児童同士が活発に交流できる双方向型授業を展開する

▶1年生から週2時間、英語の授業を実施。英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を総合的に伸ばす英語教育に取り組む

3つの教育方針

確かな学力

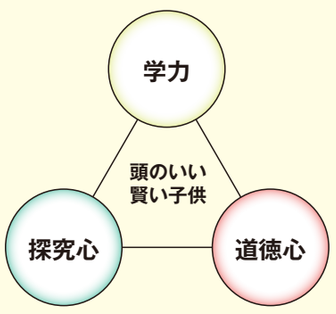
「読む力」「書く力」「計算力」「表現力」の4つの力を育て、確かな学力を培います。学ぶ楽しさ、わかる喜びを伝え、学習意欲の向上を育成します。

探究心の追求

ものごとを五感で捉える「実体験」を通し、心身ともに豊かで、前進するための原動力、前向きに生きる力を養います。

道徳心の育成

「あいさつ」「しつけ」「道徳心」「コミュニケーション能力」をしっかり身につけ、これからの社会を担う確かな人間を育てます。



AD 5d